

都慢協レポート

看護に関わる重要なテーマを共に学ぶ場として
研修会を実施し、慢性期医療の質の向上に貢献

寄稿:看護部会 部会長 城山病院 山口和子



慢性期医療を担う医療機関で働く看護・介護職を中心にタイムリーな情報発信、研修会を毎年開催して参りましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で断念せざるを得ませんでした。2021年度については、WEBを利用して、働く仲間に必要な情報を届けたいと考えています。

看護部会では、患者の一番身近な存在であり、組織構成人数の多い職種としての影響を考え、職員一人一人に確かな知識と技術を届け、質の向上につなげたいとの思いで研修会を企画運営して参りました。その年ごとにニーズを調査し、看護・介護にとどまらず他職種と情報共有しチームとして取り組める内容を吟味してお届けしてきました。

2017年度は、日本コンチネンス協会会長 西村かおる先生をお招きし「現場に活かす排泄ケア」のテーマで、排泄障害の原因と種類の理解、チームでの診断、治療、機能訓練への取り組みについて、具体的な事例紹介をいただきました。

2018年度は、日本歯科大学教授 菊谷武先生をお招きし、「口から食べる”を支える」のテーマで、咀嚼と嚥下の違いを理解し、食事風景の正しい観察の仕方、食形態の調整・食事姿勢や環境の整備がいかに重要かを学びました。楽しみの一つでもある“食”を継続するための私たちの役割を再確認した研修会でした。

2019年度は、都立広尾病院減災対策支援室 中島康先生を

お招きし「病院における減災対策とは～事前の備え・被災時の業務を考える～」をテーマに、看護・介護職にとどまらず、事務職・施設課・総務課・栄養科・リハセラピスト等多職種に受講いただくことができました。近年自然災害も多く、いざというときに必要な医療提供ができるように事前の備えとしての対策と、実際被災時の業務・役割・業務従事と休息の考え方等、考えるよい機会となりました。小訓練の繰り返し、日常的チェックシートの活用、大規模訓練だけでなく、日ごろから防災減災意識を高める取り組みの重要性を痛感した研修でした。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策に現場が翻弄され、学びの場を企画することができず、会員病院の看護・介護職の皆様のご期待にそえず、申し訳ございませんでした。

2021年度は、新しい形を模索し安全安心な研修会を検討いたします。日本の医療は慢性期医療の質にかかっているといっても過言ではないと思っています。看護部会としてお役に立てるよう取り組んで参ります。

過去の看護部会研修会の様子

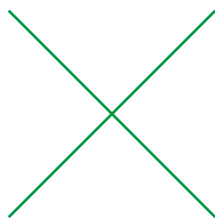


MSW部会 × 医療・福祉連携会 特別対談

「急慢」「慢慢」のスムーズな連携を目指し 今後も相談・交流の場を提供し続けたい



MSW部会部会長
佐藤 政一氏 (陵北病院)



医療・福祉連携会代表
田中義信氏 (老健アルカディア)

MSW部会は2017年より医療・福祉連携会との合同研修会を定期的に行ってきた。今回は発起人であるお二人に、その背景、きっかけ、成果、そして今後の展望について語っていただいた。

佐藤氏: まずはそれぞれの組織が生まれた背景、経緯などを紹介したいと思います。平成20年頃、救急車を呼んでも、受け入れ先が見つからないことが社会問題になりました。また救急病院から退院可能になった方が、高齢など、さまざまな理由で在宅に戻れないことも問題でした。これに対し、慢性期病院が積極的に患者を受け入れる方針を表明。それによって2次救急、3次救急に貢献したいという動きです。慢性期病院は病床稼働率を高められ、急性期病院では回転率に繋がり、経営的にもWIN-WINとなる解決策でした。

東京都としていろいろなシステムづくり、ワーキンググループなどの活動をしていくなかで、東京都慢性期医療協会がそれらを引き継ぎ、いわゆる「急慢連携」の実働部隊としてMSW部会が発足しました。具体的には情報交換や顔合わせのための交流会を行うほか、経営的視点を養うため診療報酬の勉強会も行ってきました。しかし急性期病院とのネットワークづくりがなかなか進まないという課題もありました。

病院・施設のパイプ役となり 患者さんの命や生活環境を守る

田中氏: 当時私は老健アルカディアの渉外担当として100以上の医療機関とお付き合いがありました。次第に私一人が情報を知っていて、私一人が発信するだけではもったいない、限界があるという気持ちが生まれてきました。情報を共有し、

連携し合える場を作ろうと思い、まず第1回、第2回はいわゆる飲み会というカタチで顔合わせを行いました。ありがたいことに30人以上、40人以上の方にお集まりいただき、ニーズを実感。せっかくなのでこの場を情報交換や啓蒙の機会に高めようと考え、3回目からは会場を借りて勉強会として開催しました。以来、その形を継続して実施してきました。当初から私の目的は、良きパイプ役になることです。日々、いろいろな困りごとや相談があります。MSWはそれに懸命に応えようとするわけですが、一人の力には当然限界がある。「誰かに聞いてだめでも、別の誰かに聞けば解決する」というつながり、ネットワークが常に維持されていることが理想です。

佐藤氏: 「当院では対象でなく、受けられません」と断って終わりではなく、「当院は受けられませんがそのケース内容ならあちらの医療機関、施設に相談してみてください」などとパスを出せる。そういう横のつながりを作ることを目指してらっしゃるのですね。

田中氏: その通りです。まさにそれがこの会の役割だと思っています。私という存在がいなくてもほかの誰かと誰かの連携がとれば、ご利用者の命を守ることや、生活環境を守ることができるという思いです。介護福祉士出身なのでそういう目線がありました。

佐藤氏: 素晴らしい取り組みだと思います。田中さんの行動力・決断力、施設の理解・協力があってこそですね。連携というのは、言うのは簡単ですが、実現するのは難しい。結局、

日々の努力の積み重ね、一人一人の意識の持ち方にかかってきます。

八王子では老人保健施設同士が連携する八王子老人保健施設協議会（八老協）があります。発足当時から共同で勉強会や無料相談会を開いて連携を深めてきました。同じ老人保健施設でも、何に力を入れているか、どんな得意・不得意があるかはなかなか外部には伝わりにくいもの。ましてやそうした情報を急性期病院の方に知ってもらう機会はなかなかありません。そんなとき医療・福祉連携会の存在を知り、研修に参加させていただきました。そして「ぜひ東京都慢性期医療協会MSW部会と合同で研修会を開いてほしい」とお願いしたところ、田中さんにご快諾いただきました。

渉外担当や地域連携室も含め 診療報酬も踏まえた連携を目指す

田中氏：そうでしたね。佐藤さんのお話をうかがって、「もちろん喜んでやりたい」という気持ちでした。マイナスに考えず、プラスにやっつけていこう、結果は後からついてくると。当時はアルカディアの渉外担当としてお付き合いがある病院に少しでも還元したいという気持ちが強くありましたし、私には急性期病院とのつながりもありました。佐藤さんのおっしゃるように、急性期の治療が終了した患者様に退院先を紹介したいというニーズがあります。しかし急性期と慢性期のつながりは薄く、協働してなにかをする機会も少ない。「急慢」のパイプを少しでも作れたら、という意図はありました。

佐藤氏：「還元したい」という言葉はよくおっしゃっていますね。私としても、MSWiに限らず、渉外担当の方や地域連携室の方も含めた連携の場を探していました。MSWの勉強会というケース事例検討が多くなってしまうのですがそれだけではなく、急慢連携、慢慢連携、また経営的な視点での連携のために診療報酬の勉強も必要と考えており、それもまた、ご利用者やご家族に還元されると考えています。田中さんのやられていることはまさに求めているものでした。合同研修会という場を通してお互いの立場をふまえ、お互いの情報を知っていくことができると

思っていました。

田中氏：佐藤さんがおっしゃるように、診療報酬と介護報酬の同時改定があったタイミングで合同研修会を開いたときは、改定に伴う各病院・施設の方針や方策を話し合い、「それならこういう連携ができるね」などの意見交換にまでつながりましたね。狙い通り、経営も意識した連携戦略を考える場となりました。

佐藤氏：回を重ねるごとに、人と人とのつながりも順調にできていきました。また新人研修の場としても有効で、ご活用いただいています。

田中氏：毎回参加者の方に行っているアンケートでは、勉強の場、交流の場として継続してほしいという声が多数ありました。こうしてほしい、こうしたいと具体的な意見もたくさんいただき、ニーズの高さ、この会に主体的に関わろうとくださる姿勢をひしひしと感じてきました。ですからぜひ継続したいと思っています。

佐藤氏：2020年度は新型コロナウイルスの影響で、予定していた活動はすべて中止となってしまい、とても残念でした。

田中氏：厳しい状況ですね。もうコロナ前に戻ることは想像できません。こうした活動もICT化が必要だと思います。WEB会議ツールを使えば、対面で会わなくても今までのような活動や交流はできると思います。「こういう雰囲気なら参加してみようかな」と思ってくれる方が増えて、たくさんの人が集まるようになれば、スムーズな連携への前向きなムードがまた盛り上がってくるのではないのでしょうか。そう考えると、これは良いリスタートの機会ととらえることができます。WEB会議上で、まずは一度合同研修会を行ってみたいですね。コロナ禍ではありますが、発想を切り替えて、今後もMSW部会の新しい活動様式を定着させるお手伝いができればと思っています。

佐藤氏：ありがとうございます。今後もそれぞれの立場や機能の違いを踏まえて情報交換や相談ができる場として活動を続けたいと考えていますのでよろしく願いいたします。

※MSW部会では活動に興味のある方、一緒に活動してみたい方を募集しています。詳しくは陵北病院・佐藤までご連絡ください。(TEL:042-651-3231)

過去のMSW部会／医療・福祉連携会合同研修会の様子



第26回事例発表会 結果報告



第26回事例発表会は初めてとなるWEB上での開催となった。コロナ禍という厳しい状況にもかかわらず、17演題の発表があり、2021年2月9日14時より配信がスタート。2月18日14時から演題ごとに座

長のコメント、それに対する演者からの回答が追加され、進藤会長より閉会式のコメントと優秀演題の発表も行われた。優秀演題には下記の2つが選ばれた。「どちらも看護の質の向上に役立つ良い内容だった」と進藤会長。

「来年はどのような形式になるかは未定ですが、対面での懇親の場として、それぞれの活動の成果を発表する場として今まで通り行えるようになることを願っています。まだまだ大変な状況は続きますが、1年間研鑽を積み、また来年たくさんの意義深い発表があることを期待しています」と進藤会長は挨拶を締めくくった。公開からの視聴回数のはのべ1,289回となった(2021年3月8日現在)。

※一人でも多くの方にご覧いただけるよう、事例発表会特設サイトは協会ホームページにて引き続き公開中。視聴画面にログインの際はパスワードが必要なため、ご希望の方は事務局にお問い合わせください。

優秀演題

「患者さんが望んだ終末期の迎え方 終末期だから ACP=人生会議の視点を持つ」



信愛病院
渡邊一江
山地ひろみ

座長よりコメント：看護部会 山口 和子

日々のケアの中からACPの重要性・必要性を感じ、その実践のための質問票を用いて個別ケアにつなげた素晴らしい発表でした。質問票を使用するタイミング、さりげない気遣い等配慮が必要ですが、うまくいったケースを教えてください。緩和ケア病棟にとどまらず病院全体に広げべく、これからの教育体制に期待します。

演者より回答：信愛病院 渡邊 一江

A氏76歳女性、上行結腸がん。入院しても自分らしい生活を過ごしたいとの希望あり。自身のセルフケアは出来るだけ自分で行き、病棟内のイベントの際には私服に着替えて参加され、バスに乗って駅前で買い物も楽しめました。
B氏58歳女性、胃がん。家族との時間を大切にしたい希望あり。お孫さんと一緒にベッドで過ごされたり、ミルクを飲ませたりと、症状コントロールを図りながら、ご自宅にいる時のように家族と過ごされた。

優秀演題

「不適切なケアへの取り組み ～ケアの質向上・優しいケアを目指して～」



セントラル病院
富永菜穂美

座長よりコメント：看護部会 山口 和子

どこの施設でも抱えている難しい課題に取り組みましたね。今回の調査や体験等で再認識し、個人の問題だけでなく職場環境としての改善点が見えてきたことに解決の糸口を感じます。時間の経過とともに薄れてしまう意識の継続のための次のアクションはどのように計画していますか？更なる取り組みに期待いたします。

演者より回答：セントラル病院 富永 菜穂美

ご質問ありがとうございます。今後は、今回取り組んだチェックリストを使用した定期的な振り返りの実施と、「不適切なケアかも？」とを感じるような演習事例を用いてスタッフ間で意見交換を行うようなミニワークを日常の業務の中に取り入れていきたいと考えています。

4部会合同講習会開催

2021年3月31日(水)より4月12日(月)13時まで協会ホームページにて、4部会合同講習会を開催。

講演1

「コロナの院内発生について」
玉城 成雄先生 城西病院理事長

講演2

「慢性期病院の対策」
田中 裕之先生 当会理事/日本介護医療院協会副会長/
陵北病院院長



一般社団法人
東京都慢性期医療協会 事務局
〒193-0942 東京都八王子市栢田町583-15
TEL. 042-666-3312 FAX. 042-673-6552

都慢協レポートのバックナンバーはホームページよりご覧いただけます。PC・スマートフォン・タブレット → 用QRコードです。http://tmik.or.jp

